

# 社会技術研究開発 平成23年度募集説明会 「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」

## 提案募集について(事務事項説明)



平成23年5月12日

## 科学技術振興機構の概要



### 新技術の創出

#### 戦略的創造研究推進事業

CREST(チーム型研究)  
さきがけ(個人型研究)  
ERATO(総括実施型)  
先端的低炭素化技術開発

#### 社会技術研究開発

など

### 新技術の 企業化開発

産学連携・技術移転事業  
技術移転支援センター事業  
知的財産戦略センター  
研究成果展開事業  
など

### 科学技術 情報の流通促進

科学技術文献データベース(JDream II)  
文献データベース解析可視化サービス(AnVi seers)  
科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)  
科学技術総合リンクセンター(J-GLOBAL)  
など

### 科学技術コミュニケーション

サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト  
スーパーサイエンスハイスクール  
サイエンスチャンネル  
日本科学未来館  
など

### 研究開発に係る交流・支援

戦略的国際科学技術協力推進事業  
地球規模課題対応国際科学技術協力事業  
など



# 社会技術とは？

自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術であり、社会を直接の対象とし、社会において現在存在しあるいは将来起きることが予想される**問題の解決を目指す技術**

「社会技術の研究開発の進め方に関する研究会」  
(平成12年12月科学技術庁(当時))

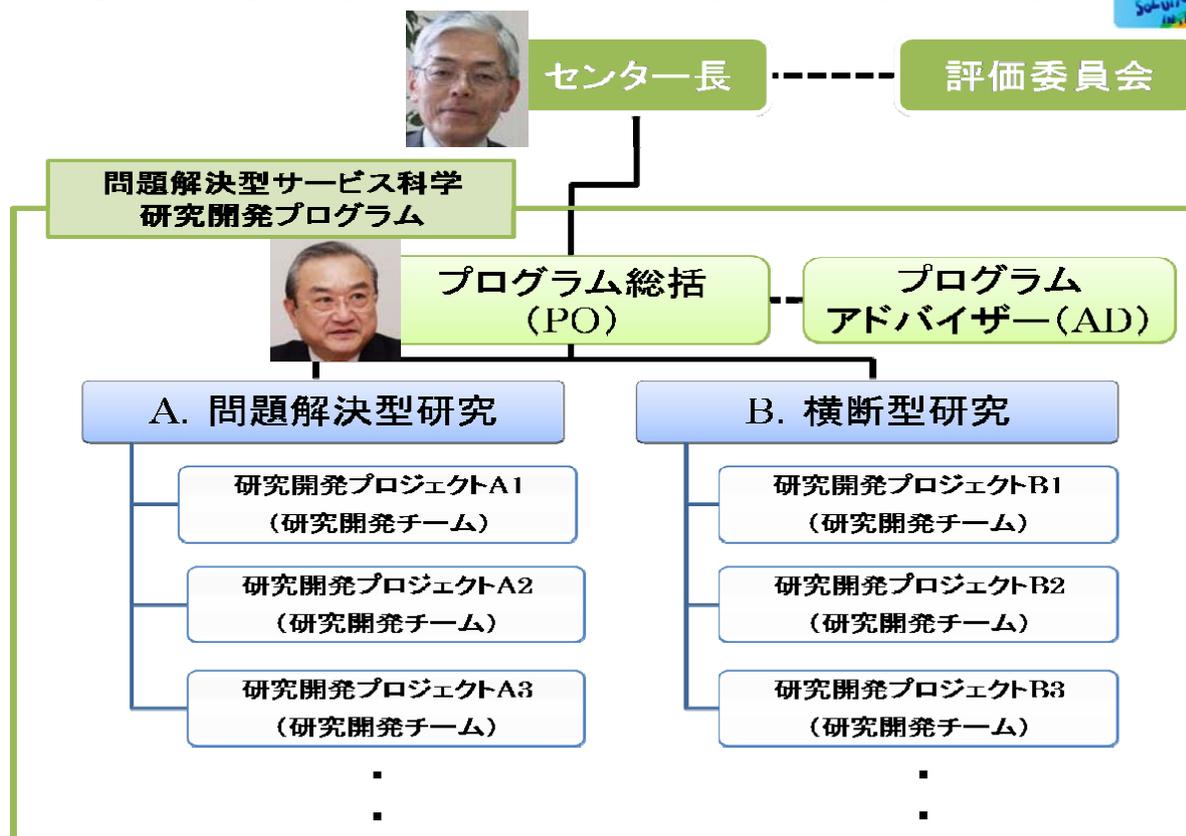
3



# 社会技術研究開発とは

- **社会の具体的な問題の解決**を通して、新たな**社会的・公共的価値の創出**を目指す。
- 社会問題の解決に取り組む**関与者と研究者が協働するネットワーク**を構築。
- 自然科学と人文・社会科学の知識を活用した研究開発を推進し、**現実社会の具体的な問題解決に資する成果**を得る。
- **成果の社会への活用・展開(社会実装)**を図る。
- 社会技術研究開発センターが**競争的資金配分機関**として事業を推進。

4



## 二種類の研究アプローチ



### A 問題解決型研究

40百万円×最長3年

具体的なサービスを対象に、当該サービスに係る問題解決のための技術・方法論等を開発し、問題を解決するとともに、得られた技術・方法論により「サービス科学」の研究基盤の構築に貢献する。

### B 横断型研究

最長3年間

研究エレメントに焦点を当て、新たな知見を創出し積み上げることで体系化し、「サービス科学」の基盤を構築。それにより、知見が将来的に現場の様々な問題解決に応用され、サービスの質・効率を高め、新しい価値の創出に貢献する。

#### B1.文理融合型

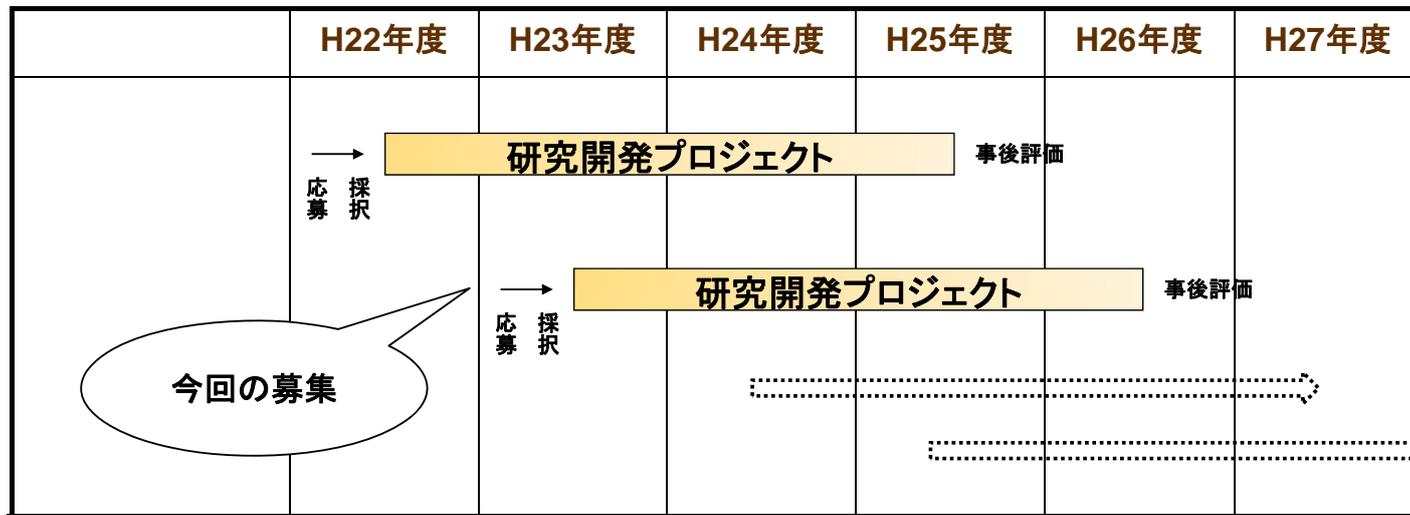
最大20百万円/年

#### B2.人文・社会科学型(新設)

3~5百万円程度/年

※金額は直接費・間接費合計

# 研究開発プログラムの実施パターン



各年度数課題を採択  
(採択課題数は予算事情等により変動の可能性あり)

## 応募方法



・府省共通研究開発管理システム(e-Rad)から行ってください  
<http://www.e-rad.go.jp/>

※研究代表者、研究機関はあらかじめ登録が必要



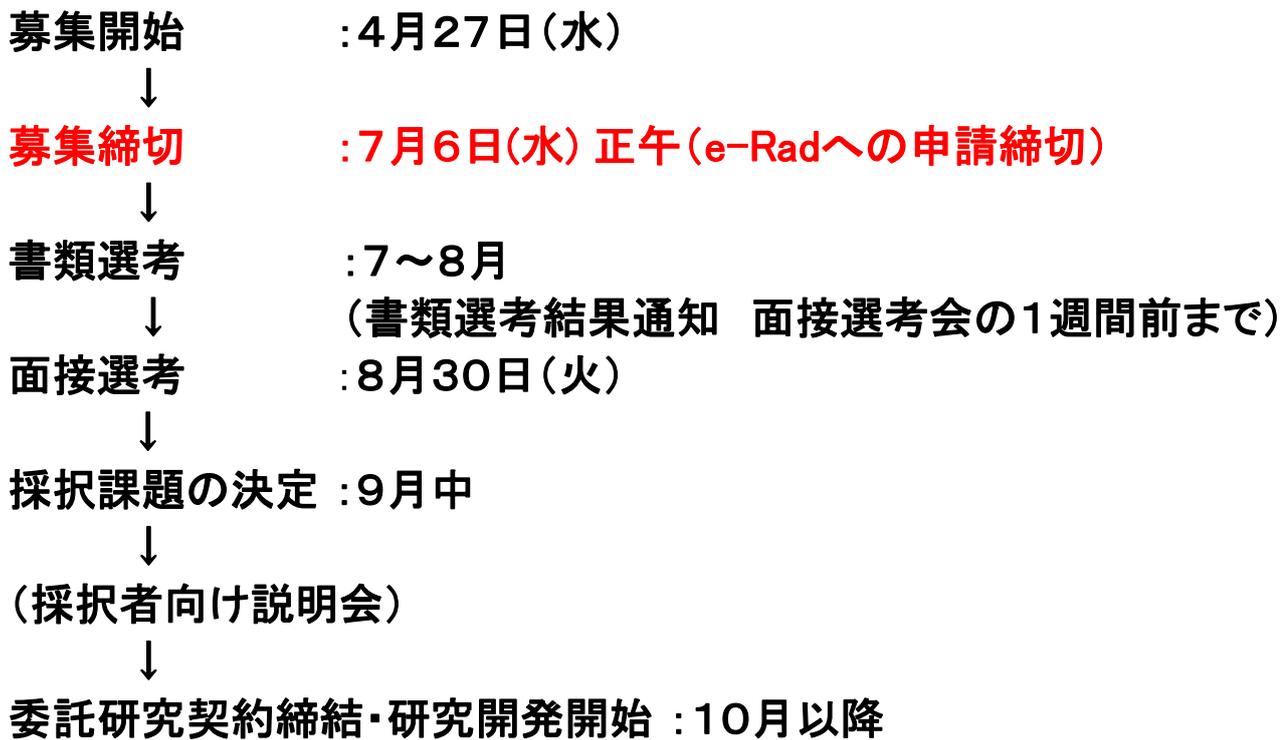
平成23年度募集の他の研究開発プログラム  
 ・「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」  
 ・「科学技術イノベーション政策における政策のための科学」  
 と重複してのご応募はご遠慮ください

研究開発プロジェクト(提案課題)応募受付締め切り  
 (府省共通研究開発管理システム[e-Rad]による  
 受付期限日時)

平成23年7月6日(水)正午12時<厳守>



# H23年度選考のプロセス



9

## 関連書類の入手方法

- ・募集要項(お手元のもの)
- ・提案書様式(電子ファイル)

1. 社会技術研究開発センターホームページから  
<http://www.ristex.jp/examin/suggestion.html>
2. 府省共通研究開発管理システム(e-Rad)ホームページから  
<http://www.e-rad.go.jp/>



公募名	公募要項	申請様式			URL	機関承認の有無	応募受付開始日	機関内締切日	応募受付終了日	応募情報入力
		Word (Win)	Word (Mac)	一太郎						
コミュニケーション創 新拠点「高齢社 会」のデザイン					平成23年度 社会技術研 究開発センター 公募要項	無	2021年04月20日 14時00分		2021年06月29日 13時00分	<a href="#">応募情報入力</a>
CREST(松永理 研究奨励)「藻 類×菌叢生態 の機能解明と制 御による「バイオ エネルギー」創 出のための基礎					戦略的創造 研究推進事 業「平成23 年度研究推 進事業の一 環」	無	2021年03月15日 14時00分		2021年05月17日 12時00分	<a href="#">応募情報入力</a>

10



# 応募に際しての注意事項(その1)

## 1. 提案者の条件

- ・研究開発チームを編成し、リーダーシップを持って研究開発を推進出来る方
- ・国内の機関への所属
- ・実施期間中、研究開発全体に責任を負える方

## 2. 提案者(研究提案者)が提案いただけるのは1件のみ

## 3. 不合理な重複及び過度の集中の排除

他の研究助成等を受けている場合は、提案書の様式に記載してください。  
不実記載の場合、不採択、採択の取り消しになる場合があります。

## 4. 研究開発費等の不正な使用等に関する措置

- ・研究開発等の中止、研究開発費等の返還を求めます
- ・一定期間、本事業への応募及び新たな参加が制限されます。
- ・他の競争的資金制度において申請及び参加が制限される場合があります。

11



# 応募に際しての注意事項(その2)

## 5. 実施機関における研究開発費等の適切な管理・監査の体制整備

- ・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく体制整備等自己評価チェックリストの提出が必要です。(採択時)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kansa/08122501.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/08122501.htm)

## 6. 研究活動の不正行為に対する措置

- ・研究開発等の中止、研究開発費等の返還を求めます
- ・一定期間、本事業への応募及び新たな参加が制限されます。
- ・他の競争的資金制度において申請及び参加が制限される場合があります。

## 7. その他 倫理的対応等

- ・相手方の同意・協力や社会的コンセンサスが必要な場合、応募に先立って適切な対応を行ってください。
- ・生命倫理・安全の確保等について、必要に応じて研究機関ごとに所定の手続きを行ってください。

12



# 研究代表者の責務

- ① 関与者ネットワークへの参加
- ② プログラム総括のマネジメント下での研究開発プロジェクト  
推進及び管理
- ③ チーム全体の研究開発費の管理
- ④ 研究開発成果のアウトリーチ活動
- ⑤ 委託研究契約の遵守、JST諸規定の遵守
- ⑥ 政府研究開発データベース等への各種情報提供への協力
- ⑦ プロジェクトの中間・事後評価への協力
- ⑧ 事業評価、経理調査、国の会計検査などへの対応
- ⑨ 追跡評価への協力（研究開発プロジェクトのみ対象）

13



# 研究開発費

- ・研究開発費は、委託研究契約に基づき、実施者の所属する機関により執行。（知財は機関に帰属）
- ・研究開発等にかかる直接経費に加え、一定比率（上限30%）の間接経費をJSTから支払い。

## 【直接経費の用途】

設備・備品費、消耗品費、旅費、新たに雇用する研究者等の給与、アルバイト賃金、調査費、ワークショップ開催費等

（※外部に対する研究開発の再委託は認められません）

14



# 研究開発評価の実施

- ①プログラム総括・アドバイザーは、研究開発の進捗状況や成果を常時把握し、研究開発計画等にフィードバックします。
- ②センターの方針に基づいて、中間評価を行うことがあります。
- ③研究開発終了後、評価委員会による事後評価を行います。
- ④中間評価及び事後評価は、当該分野の専門家による専門的観点からの評価(ピアレビュー)と、得られた成果が投入された資源(資金、人)に対して十分に見合ったものであるか、という視点での妥当性、社会的意義・効果に関する評価(アカウンタビリティ評価)により行います。



S³FIREウェブサイトで最新情報をご参照下さい！  
<http://www.ristex.jp/service-science/>



トップページ



プロジェクト紹介ページ



トピックスページ

# (参考)「A.問題解決型研究」と「B.横断型研究」の対比表



	A. 問題解決型研究	B.横断型研究
概要	<p><b>具体的なサービスを対象</b>に、当該サービスに係る問題解決のための技術・方法論等を開発し、問題を解決するとともに、得られた技術・方法論が「サービス科学」の研究基盤の構築に貢献することを目的とする研究。</p>	<p><b>研究エレメントに焦点を当て</b>、新たな知見を創出し積み上げることで体系化し、「サービス科学」の基盤を構築する。それにより、知見が将来的に現場の様々な問題解決に応用され、サービスの質・効率を高め、新しい価値の創出に貢献することを目的とする研究。</p> <p>「B.横断型研究」の下に、<b>文理融合に重点を置いた研究アプローチのB1(文理融合型)と、人文・社会科学系に重点を置いた研究アプローチのB2(人文・社会科学型)を設定。</b></p>
A, Bの 関係	<p>Aの問題解決とBの科学的な概念・理論・技術・方法論の創出とが補完的に働き、「サービス科学」の研究エレメントが一般化・体系化され、基盤構築の進捗が期待される。</p> <p><b>「A問題解決型研究」および「B1.横断型研究 文理融合型」は文理融合に重点を置いた研究アプローチを推奨。「B2.横断型研究 人文・社会科学型」では、人文・社会科学系に重点を置いた研究アプローチを推奨。</b></p>	
期間・費用	<p>・期間：最長3年 ・費用：最大40百万円/年・プロジェクト</p> <p>(直接経費・間接経費合計)</p>	<p>・期間：最長3年 ・費用： B1. 横断型研究 文理融合型 <b>最大20百万円</b>/プロジェクト・年 B2. 横断型研究 人文・社会科学型 <b>3~5百万円程度</b>/プロジェクト・年</p> <p>(直接経費・間接経費合計)</p>